世界中で色々な話せる言語がある。そのため、万国の言語は自分の差別語用を作る。太田先生は日本語の差別語用を紹介していただきました。その後で日本語とカナダの違いを気づいた。カナダも差別語があるが、比べると少し違うと思う。

　確か、作文を書いた時、差別用語を使ったかもしれなかったが、太田先生の講義の前に知らなかった。日本語の差別用語には漢字の直接な意味があると感じる。例えば、「外人」は国のよそ者の意味だ。もし、外国人に呼ばれば、その人は傷つけるようになるかもしれない。しかし、英語で「なぜ、その言葉は差別用語ですか」をよく考え、理由をインタネットで調べる。

　結論として、言葉の強さは気を付ける必要がある。言葉の使い方は人に傷つけることができるが、社会の文化をどんどん変わりなが、人を優しく取り扱うと、皆と一緒に仲良くできる。